
異世界軍師体験記

葵 舞

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界軍師体験記

【Nコード】

N4867F

【作者名】

葵 舞

【あらすじ】

自称・ごく平凡な高校生、二夜光^{ふたよしつ}は、ある日突然にこの世に別れを告げる。そして気づいた時には彼は異世界にいた。そこで出会ったイフィール王国の王、クラウド・アーベルトに才能を見出され、彼はやがて軍師となり戦争へと巻き込まれていく。

プロローグ（前書き）

始めまして、この度この小説を書くこととなった葵 舞です。
若輩者で更新速度が半端なく遅いですが、どうかよろしく願います。

ブローグ

その日の朝、俺はいつもよりも焦っていた。

なんというか…いや、言い訳はしない。ただの寝坊だ。

今日から俺の高校では定期試験が始まるというのに、前日ちよつと夜更かししてしまったのだ。うん、ちょっと。いつもより五時間ほど遅く。

いつも寝る時間は大体一時頃なので、よーするに単純計算すると六時に寝たことになる。因みに起床時刻は七時半だったので睡眠時間はなんと一時間半！ …俺のバカああああああっ！

そんなこんなで現在、自転車をかつ飛ばして学校へと向かっている最中だ。

学校が始まる時刻が八時半で、俺の通学時間はどれだけ頑張っても一時間。ぶっちゃけ間に合いそうにない。

それでも俺は諦めてはいけないのだ。

何故なら…これ以上遅刻すると留年と言われているから。

ヤバイヤバイと焦りつつ、目の前の大通りの横断歩道を渡っている最中に「それ」は起こった。

——ドンッ！——

最初感じたのは浮遊感。

え？　と思いながら俺は空を飛んだ。

周りの音が消えて、意識がここではない何処かへと向く。

そこでようやく俺はトラックに轢かれた事を理解した。

この日、俺はこの世界での人生に終わりを告げた。

第1話 始まり

暖かい

真っ白で 何も無い

汚れない綺麗な白

何もかもが曖昧で

概念など存在しない

そんなセカイで

今

一つの生命が新たな始まりを告げた――

気がつくとその中は森の中だった。

「…は？ えっ！？」

ココハドコ？ ワタシハダレ？ なんてふざける余裕もなかった。
訳が分からない。

何が起きたんだ？

頭がパニックを起こす。

混乱して、混乱して、それがしばらく続いた。

いつの間にか俺の頭の中にはある一つの単語が浮かんでいた。

異世界

スウっと頭が冷えた。

そうだ、そうだったのだ。

ここは『異世界』であり、俺はそれを『知っている』。

理由は分からないが俺はそれを知っているのだ。

その事実を受け入れると同時にある映像が脳に浮かび上がった。

宙に浮かぶ身体。

隔絶する世界。

引き伸ばされる時間。

ああ、そうなのか。

俺はあの時『死んだ』んだ。

そしてあの世界に別れを告げた。

それで、気がついたら俺は異世界にいた。

訳が分からない。

訳が分からないが――

――面白いじゃないか。

そう思いながら俺は心の底から歓喜に震えていた。

退屈していたのだ。代わり映えのない日常に。
やっと俺の求めていたモノが手に入って、俺は久々に興奮してい
た。

だから気づかなかった。

俺のすぐ後ろの茂みが音を立てた事に…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4867f/>

異世界軍師体験記

2010年10月10日13時18分発行